

財団法人 Karuizawa New Art Museum

六つの個展－二人の絆

六つの個展－二人の絆－

軽井沢ニューアートミュージアムでは、「絆」をテーマに展覧会を開催いたします。

絆とは、何かと何かの関係性の中から紡ぎだされるものです。出会いがあり、さまざまなモノとの関係性の中から絆は生まれます。美術館は、さまざまなモノが出会う場所です。作品と人、作品と作品、作品を見た人が新たな自己と出会う。異質なモノが出会うことにより新しい意味が創出され、同じ空間を共有した人と人之間にも新たな関係性を築きます。

本展では現在国際的に注目を集めるアーティストが六つの展示室にそれぞれ個性あふれる空間を創出し、二人の絆の仲立ちをします。

オープニングを飾る作家として、千住博（第1室）、舟越桂（第2室）サイトウマコト（第3室）、井上有一（第4室）、奈良美智（第5室）、草間彌生（第6室）の作品を展示いたします。

展覧会の開催に際し、ご協力いただいたコレクターの方々、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

開催情報

- ◇展覧会名 六つの個展—二人の絆
- ◇会 期 2013年10月3日(木)～2014年9月23日(火祝)
会期中随時展示替をしていきます。
- ◇会 場 Karuizawa New Art Museum 第1~6展示室(2階)
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1151-5
- ◇開館時間 4月～6月：午前10時～午後5時
7月～9月：午前10時～午後6時
10月～3月：午前11時～午後5時
※ともに入館は閉館30分前まで
- ◇休 館 日 毎週火曜日
※但し2014年4月29日(火)、5月6日(火)は開館
※8月無休
- ◇観 覧 料 一般：1500円(案)、65歳以上・高校生：1200円(案)、中小生：700円(案)
※20名以上の団体で来館の場合、上記各観覧料の200円引き
※就学児無料、障害者割引あり(上記観覧料の半額)
- ◇企画・主催 Karuizawa New Art Museum
- ◇監 修 村田慶之輔、千足伸行、本江邦夫
- ◇協 力 株式会社アートスペース、株式会社シーマ
- ◇後 援 長野県、長野県教育委員会、軽井沢町、信濃毎日新聞社、上毛新聞社、NBS長野放送、SBC信越放送、abn長野朝日放送、TSBテレビ信州、軽井沢新聞社、軽井沢ニュース舎、東京藝術大学社会連携センター、KIAC(軽井沢国際芸術文化都市推進協議会)

主な出品アーティスト



(展示室風景)

草間彌生 (1929-) [第6展示室]

長野県松本市生まれ。幼少期より幻覚、幻聴の病を抱える。絵を描くことが好きだった彼女は画家になる決意をし、1958年に渡米。水玉と網模様をモチーフに絵を描き始める。「無限の網」による巨大なモノクローム絵画で注目をあびる。ソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った作品、パフォーマンスなど創作活動の幅を広げる。1973年に帰国後は活動拠点を日本に移す。草間は初期から現在まで一貫して水玉と網模様をモチーフに絵を描き続けている。2011年から2012年にかけて欧米において大規模な巡回展開催。現在もなお精力的に制作を続け、最も注目されている日本を代表するアーティスト。

舟越桂 (1951-) [第2展示室]

岩手県生まれ。父は近代日本彫刻史を代表する彫刻家の舟越保武。初期から現在まで、一貫して人間を題材とした木彫作品を発表。悠久の時間を捉えたかのような神秘的雰囲気的人物像を多数制作し、近年では両性具有のスフィンクス・シリーズなどで国内外において高い評価を受けている。2003年には「舟越桂 Works:1980-2003」が東京都現代美術館など全国を巡回、08年東京都庭園美術館にて「舟越桂 夏の邸宅」、2010年には「ヤン・ファールブル×舟越桂 Alternative Humanities 新たなる精神のかたち」(金沢21世紀美術館)。



舟越桂《冬の先触れ》

1999年 楠に彩色、大理石、ブリキ、鉄



サイトウマコト《Fellini 向かい合う顔》

2011-12年 アクリル、油彩、カンヴァス

214.0×158.0 cm

サイトウマコト (1952-) [第3展示室]

福岡県生まれ。1970年代よりグラフィックデザイナーとして活動を始める。1990年代半ば絵画の研究を始め、グラフィックデザインとモダンアートの融合を模索。サイトウの絵画は、同時代の現実世界とデジタル世界との関係性に寄り添うかのように、制作プロセスにコンピューターという他者を介入させ、絵画でも写真でもない「デジタル・ペインティング」を試みている。主な展覧会に2008年「サイトウ・マコト展: SCENE [0]」金沢21世紀美術館などがある。

井上有一 (1916-1985) [第4展示室]

東京都生まれ。小中学校の教師をしながら絵や書の制作に励む。25歳で書家・上田桑鳩に師事。1952年「墨人会」を結成し「アートとしての書」の道を切り開く。閉鎖的・高踏的な書壇に抗して「書は万人の芸術である」と主張した。

書の本家である中国からも高い評価を得ている。1954年「日本書道展」(ニューヨーク近代美術館)、1956年「日本書道と西洋の記号展」(クンストハレ・バーゼル)、1963年にはヨーロッパを巡回した「書法と形象展」に出品。没後、京都国立近代美術館をはじめ、全国国立美術館巡回回顧展を開催。



井上有一 《夢》

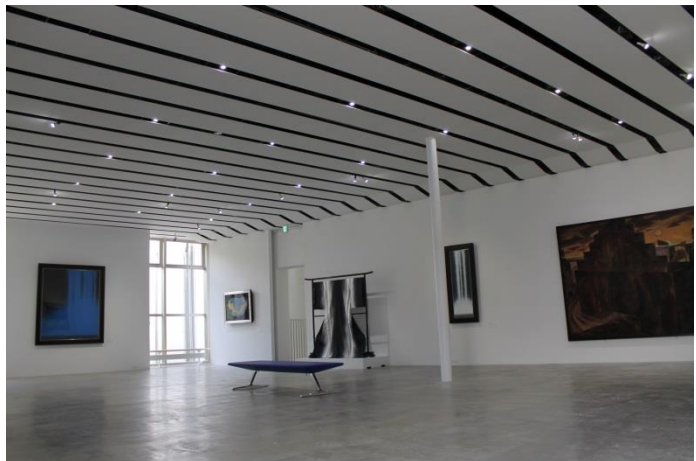
1966年 墨 和紙

214.0×125.0 cm

千住博 (1958-) [第1展示室]

東京都生まれ。1998年東京藝術大学大学院後期課程修了。

1995年第46回ヴェネツィア・ビエンナーレで名誉賞受賞以後「滝の千住」として国際的に認知される。東京、京都、ニューヨークを拠点として制作活動を行う。代表作には「フラット・ウォーター」シリーズ、「ウォーターフォール」シリーズ



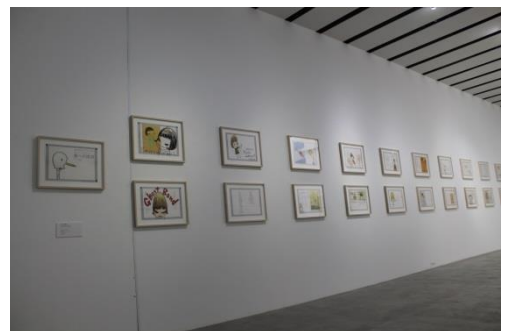
などがあり、日本のみならず海外でも高い評価を受ける。1995年台北市美術館、1996年彫刻の森美術館、2002年大徳寺聚光院別院の襖絵を制作。2005年福岡アジア美術館、2006年山種美術館にて個展開催。2009年にはベネッセアート直島・家プロジェクト「石橋」母屋の《空の庭》を完成させた。2011年、千住博ミュージアムを開館。

奈良美智 (1959-) [第5展示室]

青森県生まれ。1987年愛知県立藝術大学修士課程修了。

1988年渡独、デュッセルドルフ芸術アカデミーでマイスターシュウラー取得。2000年に帰国、2001年「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME」(横浜美術館、他)開催。2003年頃から graf と古材を使った小屋型のインスタレーションの共同制作を始める。

2010年「セラミック・ワークス」(小山登美夫ギャラリー)では陶芸に初挑戦。2012年から2013年にかけて「奈良美智: 君や 僕に ちょっと似ている」展が横浜美術館、青森県立美術館、熊本市現代美術館を巡回。絵画、彫刻、大規模インスタレーションなど多様な領域で作品を制作。



ジャック・プレヴェール (Jacques Prévert, 1900-1977)

フランスの詩人、シナリオライター。1926年～30年シュルレアリスム運動に参加。のち映画に興味を持ち脚本を書く。詩ではシュルレアリスムから反動的、無政府主義的な精神、ブラック・ユーモア、大胆で意外な言語表現などを受け継いだが、一方では民衆的な単純さもあわせもつ。1946年に発表された第一詩集『ことばたち』は、1990年までに300万部を超えるロングセラーになっている。また彼の「バルバラ」、「枯葉」などの詩にジョゼフ・コスマが曲をつけた歌は、現在でも歌い継がれ、プレヴェールは愛と民衆の心を歌う詩人としても知られている。

高幡勲 (1935年ー)

三重県伊勢市生まれ。1959年に東京大学仏文科卒業後、東映動画へ入社。劇場用映画「太陽の王子ホルス」(1968)で初監督。「アルプスの少女ハイジ」(1974)、「風の谷のナウシカ」(1984)、「天空の城ラピュタ」(1986)、「火垂るの墓」(1988)など数多くの名作のプロデューサー。著作に「ジャック・プレヴェールことばたち」(ぴあ刊、訳および解説と注解)などがある。

《鳥への挨拶》

ジャック・プレヴェールはこの世の悲しみを見つめながら、生の喜びや友愛、自由を歌った。彼はその生涯を通じて、あらゆる抑圧や戦争や破壊を痛烈に批判・風刺し、常にその犠牲になる子どもや女性、貧しい人々、動物や木々の強くやさしい味方でありつづけた。

展示作品《鳥への挨拶》は、高幡勲がジャック・プレヴェールの詩を翻訳・編集したものに奈良美智が絵を描き加えたものである。

タブローとして描かれる奈良の子どもたちは、純粹無垢な存在としてだけでなく、時には毒をもった表情をしのばせ、見る者を魅了する。

ここに見られる奈良の絵はプレヴェールの詩の挿絵ではなく、プレヴェールの詩は奈良の絵の説明でもない。しかし、あとがきで高幡が述べているように、奈良の作品のまなざしはプレヴェールの書いた様々な子どもたちを思い起こさせる。



◇今後の予定作家：

上前智祐、諏訪敦、中西夏之、前川強、松井冬子、宮廻正明、岡本太郎、白髪一雄、田中敦子、棟方志功、元永定正、吉原治良、ジュリアン・オピー、パブロ・ピカソ、マルク・シャガール、モーリス・ユトリロ、李禹煥、レオナルド・フジタ その他

※作品は上記六人のアーティストからスタートして、不定期に数人ずつ展示替えを行います。

kaNAM
KARUIZAWA
NEW ART MUSEUM

関連情報

【関連イベント・プログラム】

◇ワークショップ

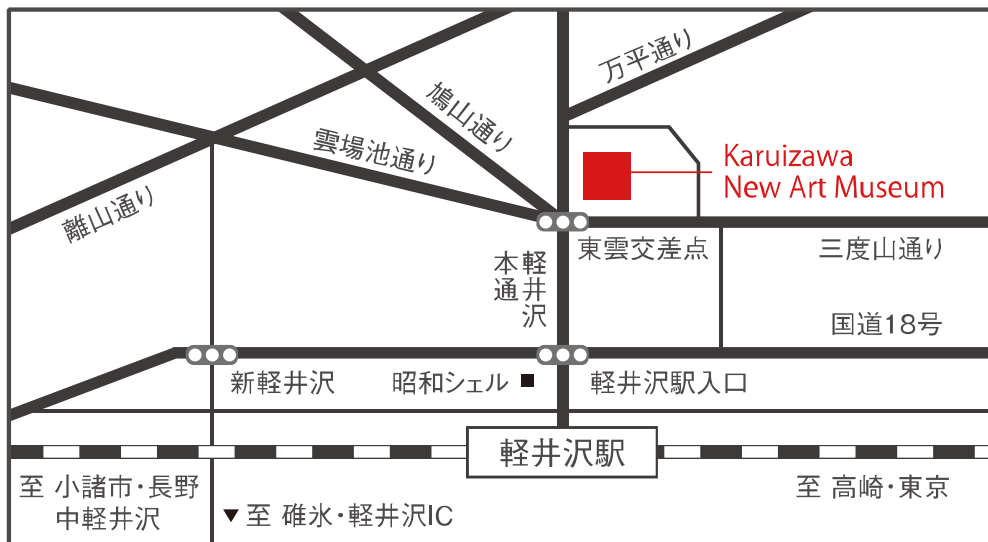
◇学芸員によるギャラリートーク

※上記以外にも様々なイベント・プログラムを開催予定です。

詳細は、後日当館HPにて告知いたします。

【交通案内】

JR 東日本・しなの鉄道「軽井沢駅」から徒歩7分



【お問い合わせ先】

Karuizawa New Art Museum (軽井沢ニューアートミュージアム)

TEL: 0267-46-8691 / FAX: 0267-46-8692

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1151-5

pr@knam.jp

kaNAM
KARUIZAWA
NEW ART MUSEUM